

2024
7月26日号201
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会 〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言



副会長 鈴木 雅 博

6月23日、気象庁は東北南部・東北北部が「梅雨入りしたとみられる」と発表し、東北南部は平年より11日遅く、昨年より14日遅い梅雨入りとなりました。梅雨入り後は、雨の日が増え、湿度も高くなりますので、生活する上では大変な時期になります。急な雨に備えておくためにも置き傘や折りたたみ傘を用意しておくのをおすすめします。また、梅雨の時期は湿度が高くなりやすいですので、室内の換気や除湿をしっかりと行うことが大切です。特に画像診断機器の温度湿度管理は重要な保守管理として位置付けられています。湿度が高いと急激な温度変化で結露が発生する事があり、装置の起動不良、動作の不安定化、データの損失、機器の物理的破損など不具合が発生する可能性が高くなります。性能を常時適切な状態に維持するためにも、日常点検や定期点検を行い適切な装置の精度維持に努める必要があります。

「降らずとも傘の用意」という千利休の格言があります。千利休といえば、織田信長や豊臣秀吉の時代に茶道を世に広めた偉人ですが、この言葉は、お茶席での心構えについて説いたもので「利休七則^{りきゅうしちそく}」と言われるものになります。

茶は服のよきように点て、炭は湯の沸くように置き、夏は涼しく冬は温かに、花は野にあるように、刻限は早めに、降らずとも雨の用意、相客に心せよ

お客をもてなす上で、最も大切な7つです。

「たとえ雨が降る見込みがなくても、傘を用意しておけば、万が一、雨が降ったときに焦らなくて済む」という教えは、昔のお茶席に限らず、現代の生活や仕事でも生きるように思います。どんな場合でも適切に応じられるやわらかい心を持ち、準備を怠らないこと。それにより、どんな時でも慌てず、臨機応変に対応できます。

千利休が基礎を作ったと言われる「茶の湯」は、さまざまな流派に分かれていき、江戸時代になり「茶道」と呼ばれるようになりました。茶道というと、厳しい作法や手順を守っ

てお茶を飲むという堅苦しいイメージがありますが、その基本は「利休七則」からもわかるように「おもてなし」の真髓を表していると感じられます。

お招きする客人のことを思い浮かべながら、茶器や茶室にかける掛け軸を選び、季節や好みに合わせた茶菓子を用意し、茶会が行われる日にちょうど綺麗に咲く花を飾る。そして、丹念に準備した茶室は、客人がやってくることで完成します。

四文字熟語としてよく使われる『一期一会』は、生涯に一度しか会えないものと心得ておもてなしするように、という茶道の心得を表しています。

『茶道の心得』は、インターネットやAIが普及し、人と人とのコミュニケーションがさらに重要視されていくこれからの時代に、大きく通じる部分があるのではないのでしょうか。

～ 県会長 「オンレコ」 ～

1 「県定時総会・第1回理事会」5月25日

今回も紙面上決裁として、総合南東北病院に理事等のみ集合して開催しました。事業計画・予算を含めて定款改正等を審議しました。今年度は役員改選がないので、事業を継続して行います。

総会運営は県南地区協議会の担当でしたが、鍵谷理事をはじめ総合南東北病院の方々には大変お世話になりました。

2 「JART定時総会」 6月15日

今回の定時総会でJART地域理事を退任

いたしました。残念ながら私の操作ミスで総会にWeb参加出来ず申し訳ありません。今回より「オンコレ」も県会長のみに戻します。後任は山形県鈴木幸司会長になりましたので引継ぎを行っています。

3 「県原子力防災訓練」

今年度は田村市の住民避難(約60名程度)等を含めた訓練が、11月9日に開催予定です。管理士部会を中心に参加者を募りますが、ぜひ積極的にご参加ください。

● 福島県立医科大学 ● 保健科学部診療放射線科学科だより ●

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 大 葉 隆

本学科の1期生25名は2024年4月から4カ月にわたる病院での臨床実習を25名全員が無事に終えることができました。本学の臨床実習へご協力いただきました会員の皆様へ、心から感謝申し上げます。また、学生の進路ですが、少しずつですが、就職先などが決定しております。今後も、教員一同は学生の就職や進学を希望に合わせて指導していきます。

就職先の見学等でご協力いただきました施設の皆様におかれまして、本当に感謝申し上げます。1期生は、さらに卒業研究に取り組み、診療放射線技師の国家試験へ臨むよう準備をしております。教員一同、学生が全員笑顔で卒業できるよう、精一杯サポートしていきます。

加えて、会員の皆様へ、研究のご協力に関する案内になります。弘前大学被ばく医療総合研究所所長の床次眞司先生を主任研究者とした環境省の調査研究事業にて、福島県内の全域において様々な自然放射線量測定を実施する予定になっております。私はこの調査研究事業の研究協力者になっております。福島第一原子力発電所（福島第一原発）事故を受けて、事故で放出された放射性物質だけでなく、自然放射線にも注目が集まりました。本事業では、過去に協力者へ調査結果を説明している中で、『実測による自然放射線を基準とした事故の影響の比較は分かりやすいので活動を県内全域に広げてほしい』との声があったそうです。また、会津地方や中通り地方では、浜通り地方における放射線被ばくに対して誤解を生んでいるケースがあり、県内でも風評加害を生む可能性があるそうです。そこで、本事業では、自然放射線量を一つの“ものさし”として福島第一原発事故由来の被ばくの影響を説明するための実測ベース資料の作成を目的として、活動しております。例えば、図1のように、川内村のように地域に特化したバージョンを昨年度まで作成いたし

5. 住民への結果説明(川内村)

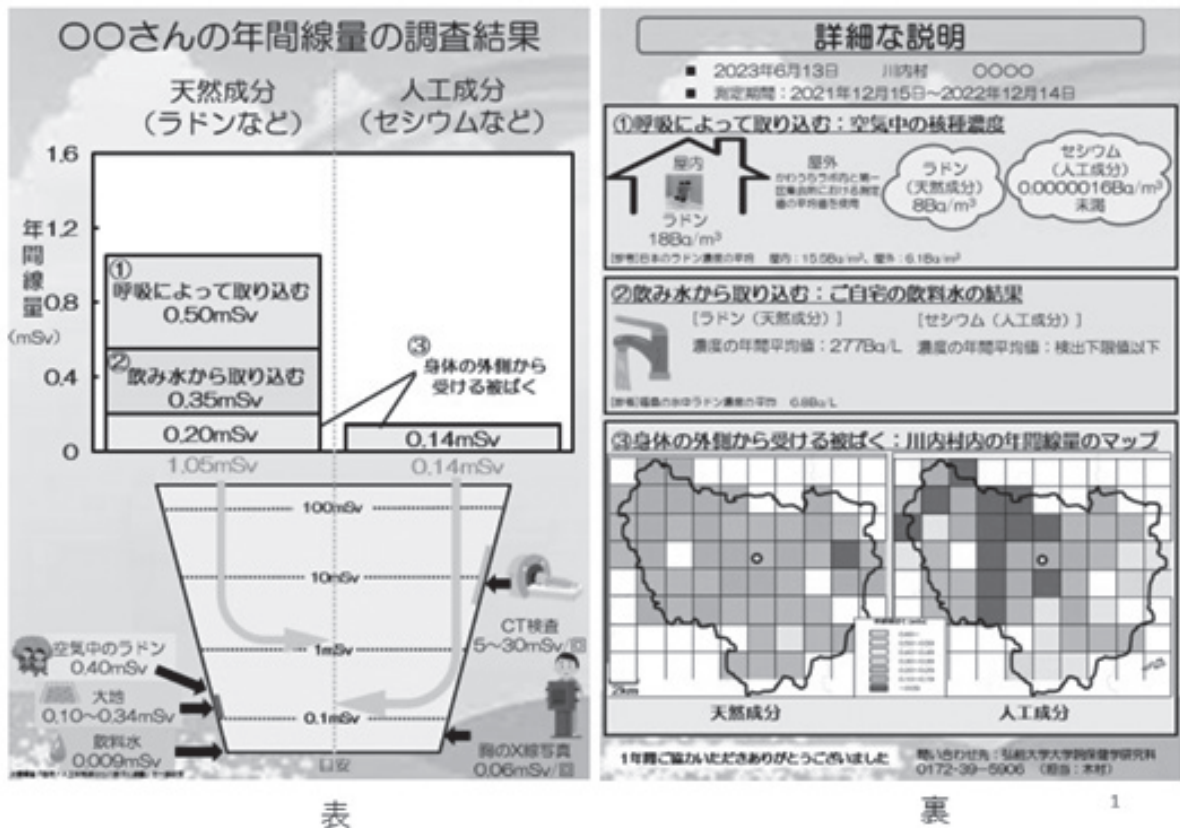


図1 川内村に特化した自然放射線量と福島第一原発事故由来の放射線の説明資料

ました。今回は、この資料の福島県全域バージョン作成を実施する予定です。

そのために、福島県診療放射線技師会の皆様へご協力をお願いとしましては、家屋内における自然放射線のラドン濃度（ α 核種）の測定に関する案内になります。ラドン濃度は手のひらサイズの測定器（図2）をご自宅の邪魔にならない場所へ吊り下げてもらいます。この測定器のコンセントからの電源確保は不要です。測定期間は、1年間になります。手間としましては、3カ月に1回、郵便で測定器が届きますので、この交換のみになります。また、些少ではありますが、謝礼を用意しております。ぜひ、皆様にご協力いただき、ご自宅や親戚宅、友人宅などへ設置させていただきたいと考えております。ラドン測定器の設置目標件数は150件を目指しております。ご協力いただいた皆様の1件1件におけるラドン濃度の測定結果は、自然放射線量に関する一つの“ものさし”を作り上げる上での重要なデータになります。合わせて、このようなデータは、福島の風評対策に繋がるだけでなく、将来にわたる放射線教育のベースへ直結すると考えております。皆様、1件1件のご協力が重要なのです。

本事業は、今年12月にラドン測定器を配布、調査開始予定ですので、11月中旬にかけて大葉の方で、参加登録の手続きをいたします。ご興味ある方は、周りの方へお声がけのうえ、ぜひ、大葉（tohba@fmu.ac.jp）まで参加のご連絡をください。参加の場合は、必要事項の記入をお願いする予定です。また、参加手続きでなくとも、本事業への質問や相談でも構いません。お気軽にお寄せください。

以上になります。最後になりますが、会員の皆様におかれましては、健やかに過ごしてください。

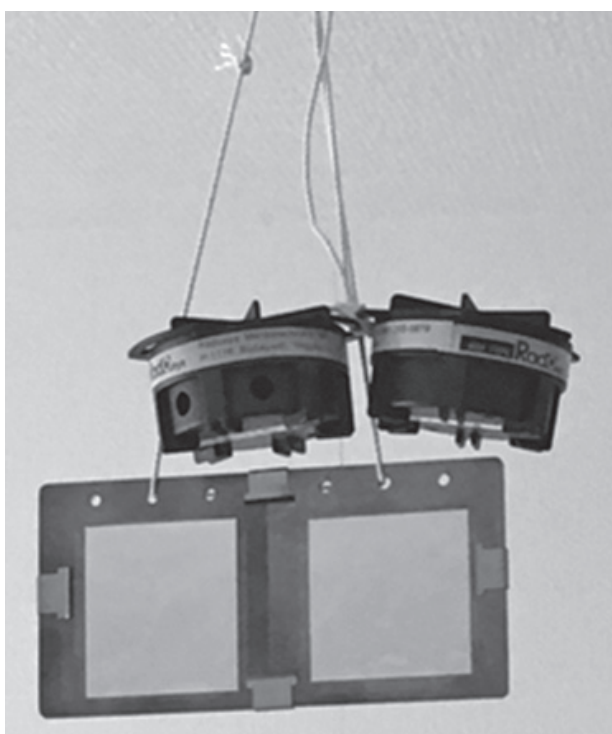


図2 ラドン測定器の外観と設置様子

地 区 だ よ り

県北地区

「県北地区協議会委員会」開催される

去る6月4日(火)18時より「県北地区協議会委員会」がWebにて開催されました。

会議では、「県北たより」、「夏季勉強会」の検討、また各種委員会からの報告等が行われました。「県北たより」は、定期的に年2回、継続発行されており、県北会員へのお知らせや話題など、編集広報委員が中心となり作成されております。今回の紙面は「全体会の報告」、「能登半島地震での災害救援報告」「新人紹介」などの記事とし、7月末に発行することになりました。また「夏季勉強会」につきましては、8月24日(土)大原記念ホールで開催することに決定し、今回は3年半ぶりに対面開催に切り替え、「STAT画像ガイドラインと救急の現状」とのテーマで行う事になりました。

プログラムに関しては以下の通りとなります。皆様のご参加をお待ちしております。

(県北地区協議会委員長 池田 正光)

【日時】 8月24日(土)

14時30分～16時30分まで

【場所】 大原記念ホール

(福島市上町5-6 上町テラス2階)

【内容】

- ・STAT画像所見報告ガイドラインの解説
- ・4施設(公立藤田総合病院・福島赤十字病院・大原総合病院・福島医大病院)からの現状報告

- ・講演「STAT画像診断報告に役立つ所見のポイント」

(演者) 東北大学病院 放射線診断科
医師 影山 咲子 先生

会津地区

「2024年度 会津乳房撮影研究会」開催

5月29日(水)に竹田総合病院にて開催され、県技師会会員13名、非会員4名の参加がありました。

今回は、ポジショニングがテーマとなっており、竹田総合病院の鈴木梨紗氏より「マンモグラフィのポジショニングを一緒に見直してみませんか」と題して発表がありました。その後、2班に分かれて、マンモ装置を使用してポジショニングの実践を行いました。基本的なポジショニングの動作を一つずつ確認しながら練習を行いました。

昨年よりも多くの方にご参加いただき、ポジショニングへの関心の高さがうかがえました。これからは乳がん検診が増える時期でもあり、ポジショニングについて向上心をもって検査に臨みたいと改めて感じました。



(竹田総合病院 小林 瞳)

「第110回 会津画像研究会」開催

6月27日(木)に竹田総合病院にて、Webを併用し開催されました。県技師会会員27名、非会員4名の参加がありました。

2019年以降は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からWebのみでの開催が多かった状況でしたが、前回に引き続き今回も会場開催を基本としたHybrid開催となりました。

今回は、MRI及びCTがテーマでした。はじめに、フィリップス社の中村理宣氏と山口優輝氏より「ITEM2024年 フィリップス MRI&CT 最新情報」と題し、最新の撮影技術や画像再構成法などの紹介、ITEM2024の振り返りを報告して頂きました。次に、竹田総合病院の千葉沙織氏より「1.5TMRI Signa Victorの使用経験」と題し、Signa Victorのディープラーニングやコイルなどの臨床における特徴について説明して頂きました。

MRI及びCTの最新情報や、実際が分かる貴重な機会となりました。

(竹田総合病院 早川 努)



県南地区

令和6年度 県南地区協議会 全体会

令和6年5月15日(水)、一般財団法人脳神経疾患研究所 附属 総合南東北病院 1階 診療放射線技師室において令和6年度の全体会が開催されました。

福島県診療放射線技師会 定款第17号に準じて、会員数193名に対し委任状160名となり定足数に達しており、全体会が成立しております。

第1号から第4号議案について、すべて「賛成票多数」により承認されました。

来年度からは、例年通りの全大会を開くように進めてまいりたいと思います。



(県南地区協議会 鍵谷 勝)

分科会・研究会報告

第6回 福島県CT

テクニカルセミナー開催

令和6年6月8日(土)に、コラッセふくしまで開催しました。今回のテーマは、「心臓CTの基礎と未来」とし、福島県内での心臓CTの現状を福島赤十字病院の玉根先生、白河厚生総合病院の増子先生、柊記念病院の高橋先生、福島県立医科大学附属病院の濱尾先生からご発表いただきました。

特別講演は、みなみ野循環器病院の望月

純二先生をお迎えしご講演いただきました。とてもわかりやすく最新の心臓CTについてご教授いただき、約90名の参加者にとって良い機会になったと思っております。

今後も、福島県内の診療放射線技師向けにCTに関する情報発信・共有・学びを提供していきたいと考えております。宜しくお願いいたします。



(代表世話人 太田西ノ内病院 大原 亮平)

第23回福島県MRI技術研究会開催

令和6年6月29日(土)に福島テルサにて第23回福島県MRI技術研究会が開催されました。今年度の研究会は久しぶりに会場参加型で開催し、参加人数は40数名でした。今回の研究会は「心・脈管系のMRI検査」をテーマとしました。

研究会では情報提供、技術講演に加え、会員発表として4施設、特別講演として東北大学の大田教授をお迎えして「体幹部の脈管MRI：撮像法の基本と臨床応用」の講演をしていただきました。

4施設からの会員発表では、各施設で実施している脈管系MRIの撮像方法の基本と工夫している点がまとめられ、発表内容の撮像経験が少ない施設でも理解しやすく、今後の臨床へ活かしやすい内容でした。ま

た、技術講演ではMRIの高速撮像技術がパラレルイメージング→圧縮センシング→ディープラーニングと進化している各撮像技術の説明がありました。

特別講演の大田先生からの体幹部脈管MRIの講演では、腹部外傷にMRIを使用する内容や体幹部の血管系の撮像方法にどのシーケンスが適し、撮像条件のノウハウなどを細かく講演していただきました。また、4D Flowを用いて血流評価ができ、その応用として大動脈解離のStanford B型で真空、偽腔の確認に役立った点など、応用技術のお話もありました。

今回の研究会では、MRIの技術の歴史から、各施設の検査対応状況、撮像技術の応用が講演され、参加者には今後の臨床で応用できるような内容であったかと思われました。



(福島県MRI技術研究会 総合南東北病院 三瓶 孝)

令和6年度 公益財団法人福島県 診療放射線技師会定時総会報告

第13回(令和6年度)

公益社団法人 福島県診療放射線技師会
定時総会 議事録

令和6年5月25日(土)、南東北BNCT

研究センター 2階会議室にて第13回公益
社団法人 福島県診療放射線技師会定時総
会が開催された。

会員総数・652名に対し出席者数・505名
となった。

以下に結果を報告します。

1) 第1号議案

令和5年度決算報告について

賛成：492名 修正：0名

否決：0名 無効：9名

2) 第2号議案

令和6年度事業計画案について

賛成：491名 修正：1名

否決：0名 無効：9名

3) 第3号議案

令和6年度予算案について

賛成：491名 修正：1名

否決：0名 無効：9名

4) 第4号議案

定款及び既定の改正

賛成：491名 修正：0名

否決：1名 無効：9名

以上、全議案に対し審議され賛成多数に
て全て承認された。

5) 会員からのご意見について

4号議案が承認されたことで電子的提
供措置が可能となり、提供方法につい
ては、今後検討をすることとなった。

また、「書面表決書 兼 委任状」に
おける記載不備に関し、様々なご意見
を頂き、この放技ニュースの場をお借りし、
総会運営委員会よりお詫び申し上げます。

(総会運営委員会 事務局 鍵谷 勝)

編集後記

技師会活動は、参集する研究会なども増えておりますが、参加者がコロナ前のように集まっていないと聞きます。参加することでWebでは感じられない多くの情報が得ることが出来るかと思えます。ぜひ現地に赴き、放技ニュースへ多くの投稿をしていただきたいと思います。そのため放技ニュースを通して分かり易く情報発信するように努めていきたいと思えます。

(鍵谷)